
6-5 開発審査会

6-5-1 法第34条第14号（開発審査会）関係

市街化調整区域内での開発行為のうち開発区域の周辺における市街化を促進する恐れがないと認められ、かつ、市街化区域内において行うことが困難又は著しく不相当と認められるもので、市長があらかじめ開発審査会の議を経たものは、許可するものです。

1. 開発審査会とは

開発審査会は、都市計画法第78条の規定に基づき、都道府県や中核市等に設置される付属機関で、鹿児島市においては、平成12年3月27日に鹿児島市開発審査会条例を制定し、開発許可制度等に関する事務を行っています。

2. 開発審査会の役割

都市計画区域内では「市街化区域」と「市街化調整区域」に区分されている区域があります。

このうち「市街化調整区域」は、市街化を抑制すべき区域とされており、開発行為が制限されています。

しかし、周辺住民の日常生活のため必要な店舗や沿道サービス施設など、市街化調整区域であっても、必要な施設の立地のための開発行為は、例外的に認められており、認められる開発行為は法第34条第1号から14号に列記されています。

これらのうち、法第34条第14号（周辺市街化を促進する恐れがなく市街化区域内において行うのが困難又は著しく不相当な開発）等の開発行為について許可する場合には、あらかじめ開発審査会の議を経る必要があります。

3. 開発審査会の審議事項

開発審査会で審議される事項は以下のようなものです。

① 都市計画法第34条第14号に係る諮問に関すること

法第34条第14号については、第三者機関である開発審査会の審議を必要としているものです。

② 都市計画法施行令第36条第1項第3号ホに係る諮問に関すること

市街化調整区域においては、開発行為と同様に建築行為も制限されています。しかし、開発行為の場合と同様に、例外的に認められる建築行為があり、認められる行為は、都市計画法施行令第36条第1項第3号イからホに列記されています。

これらのうち、令第36条第1項第3号ホは、法第34条第14号に相当する内容で、あらかじめ開発審査会の議を経ることとされています。

③ その他

上記以外に都市計画法第50条の規定に基づく審査請求に関すること等について審議します。

4. 開発審査会の組織

開発審査会は、委員〔法律、経済（農業）、都市計画、建築、公衆衛生又は行政に関しすぐれた経験と知識を有し、公共の福祉に関し公正な判断をすることができる者のうちから、市長が任命した者〕7人をもって組織することとなっています。

6-5-2 鹿児島市開発審査会条例

○鹿児島市開発審査会条例

平成12年3月27日
条例第29号

(趣旨)

第1条 この条例は、都市計画法（昭和43年法律第100号）第78条第8項の規定に基づき、鹿児島市開発審査会（以下「審査会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(組織)

第2条 審査会は、委員7人をもって組織する。

(委員の任期)

第3条 委員の任期は、2年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(会長)

第4条 審査会に会長を置き、委員の互選によってこれを定める。

2 会長は、会務を総理し、審査会を代表する。

3 会長に事故があるときは、委員のうちから会長があらかじめ指名する者がその職務を代理する。

(会議)

第5条 審査会の会議（以下「会議」という。）は、会長が招集し、会長がその議長となる。

2 審査会は、会長（会長に事故があるときは、その職務を代理する者。次項において同じ。）のほか、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。

3 審査会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(関係者の出席)

第6条 審査会は、必要があると認めるときは、関係者の出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。

(庶務)

第7条 審査会の庶務は、建設局都市計画部土地利用調整課において処理する。

(委任)

第8条 この条例に定めるもののほか、審査会の運営に関し必要な事項は、市長が定める。

付 則

(施行期日)

1 この条例は、平成12年4月1日から施行する。

(鹿児島市報酬及び費用弁償条例の一部改正)

2 鹿児島市報酬及び費用弁償条例（昭和42年条例第27号）の一部を次のように改正する。

別表第3区分の欄中「町界町名地番整理委員会」の次に「開発審査会」を加える。

6-5-3 鹿児島市開発審査会に関する規則

○鹿児島市開発審査会に関する規則

平成12年3月30日
規則第75号

(趣旨)

第1条 この規則は、鹿児島市開発審査会条例（平成12年条例第29号）第8条の規定に基づき、鹿児島市開発審査会（以下「審査会」という。）の運営に関し必要な事項を定

めるものとする。

(会議の公開等)

第2条 審査会の会議(以下「会議」という。)は、公開とする。ただし、議長は、出席委員の半数以上の者が必要があると認めるときは、秘密会とすることができる。

2 議長は、会議の運営上必要があると認めるときは、傍聴人の数を制限し、又は傍聴人を退場させることができる。

(会議録)

第3条 議長は会議録を調製し、会議の次第、出席委員の氏名等必要な事項を記載しなければならない。

2 会議録には議長及び出席委員のうちから議長が指名した2人以上の委員が署名しなければならない。

(委任)

第4条 この規則に定めるもののほか、審査会の運営に関し必要な事項は、会長が会議に諮って定める。

付 則

この規則は、平成12年4月1日から施行する。

6-5-4 開発審査会への諮問

1. 開発審査会への諮問

開発審査会へ諮問するか否かについては市(土地利用調整課)が判断します。

2. 開発審査会提案基準

この提案基準は、鹿児島市の都市計画の実情に照らし、都市計画法第34条第1項第14号及び施行令第36条第1項第3号ホの規定に基づき、原則として許可して差し支えないものについて基準を定めることにより、開発許可制度の円滑な運営に資するために定めたものです。

番 号	内 容
提案基準第1号	既存の権利の届出忘れ
提案基準第2号	社寺仏閣及び納骨堂
提案基準第3号	建替又は増築
提案基準第4号	従業員住宅等の建築
提案基準第5号	研究施設
提案基準第6号	指定既存集落内の小規模な工場等
提案基準第7号	レクリエーションのための施設を構成する建築物
提案基準第8号	医療施設、社会福祉施設等
提案基準第9号	学校等
提案基準第10号	廃棄物の中間処理施設等
提案基準第11号	使用済自動車の解体の用に供する建築物
提案基準第12号	建設業関係建築物
提案基準第13号	既存宅地
提案基準取扱い要領	その他

開発審査会提案基準 第 1 号
(既存の権利の届出忘れ)

「法第34条第13号」又は「令第36条第1項第3号ニ」による既存の権利の届出を怠った者に対する運用については、次に掲げる要件を満たすと認められる場合に提案するものとする。

- 1 届出期間内に、届出のできなかつた理由が次のいずれかに該当するものであること。
 - ア 届出期間中、県外の区域に居住していた者
 - イ 届出期間中、長期にわたり県外の区域において職務若しくは業務に従事中、旅行中又は滞在中であった者
 - ウ その他、特にやむを得ないものと認められる事情があった者
- 2 当該建築物は、市街化区域と市街化調整区域との区分に関する都市計画の決定により市街化調整区域として区分され又は当該都市計画を変更して市街化調整区域が拡張された日（以下「区域区分日」という。）から5年以内に建築されるものであること。
- 3 自己の居住又は業務の用に供する建築物であること。
- 4 区域区分日前に土地の所有権又は土地の利用に関する権利を有していたことが明確に証明できること。
- 5 当該土地が農地である場合は、区域区分日前に農地転用許可を受けていた土地であること。

開発審査会提案基準取扱い要領 第1号関係

- (1) 区域区分日前に土地の所有権又は土地の利用に関する権利を有していた土地が土地収用法に基づいて収用された場合、その代替地においても土地の要件が継続しているものとして取り扱うこととする。
- (2) 建築物には、鹿児島市宅地開発に関する条例（平成19年条例第23号）第17条に該当する場合を除き、雨水流出抑制施設を設置するとともに、雑排水については、合併処理浄化槽を設置すること。

開発審査会提案基準 第 2 号
(社寺仏閣及び納骨堂)

社寺仏閣及び納骨堂に係る「法第34条第14号」又は「令第36条第1項第3号ホ」の運用については、次に掲げる要件を満たすと認められる場合に提案するものとする。

- 1 当該建築物（納骨堂を除く。）の建築は、原則として宗教法人法（昭和26年法律第126号）第2条に定める宗教団体が行うもので、次のいずれかに該当するものであること。ただし、イに定める建築物の建築については、集落、町内会等地域的な公共的団体を含むものとする。
 - ア 本殿、拝殿、本堂又は会堂等宗教的な教義をひろめ、儀式行事を行い、又は信者を教化育成することを目的とするもので、当該市街化調整区域及びその周辺の地域における信者の分布その他に照らし、特に当該地域に立地する合理的事情の存するものであること。ただし、参拝者のための宿泊及び休憩施設は含まない。
 - イ 当該建築物の周辺地域における住民の信仰の対象として、又は儀式行事を行うため建築される社、庚申堂若しくは地藏堂等の建築物であること。
- 2 当該納骨堂の建築は、地域住民の宗教的感情に適合し、かつ、公衆衛生その他公共の福祉の見地から支障なく行われるものと認められるものであること。

開発審査会提案基準取扱い要領 第2号関係

- (1) 社寺仏閣とは、宗教法人法第3条第1号に規定する「境内建物」及び地域社会における住民の日常の宗教的生活に関連した建築物をいう。
- (2) 納骨堂とは、墓地、埋葬等に関する法律（昭和22年法律第48号）第2条第6号に規定する「納骨堂」をいう。
- (3) 建築物には、鹿児島市宅地開発に関する条例（平成19年条例第23号）第17条に該当する場合を除き、雨水流出抑制施設を設置するとともに、雑排水については、合併処理浄化槽を設置すること。

開発審査会提案基準 第 3 号
(建替又は増築)

既存建築物の建替又は増築に係る「令第36条第1項第3号ホ」の運用については次に掲げる要件を満たすと認められる場合に提案するものとする。

- 1 既存建築物が法の許可又は都市計画法又は建築基準法の一部を改正する法律（平成12年法律第73号。以下「法律第73号」という。）による改正前の法律第43条第1項第6号ロの規定（法律第73号附則第6条第1項の規定によりなおその効力を有することとされる場合を含む。）による確認（以下「既存宅地確認」という。）を受けた建築物、区域区分日前の建築物若しくは平成19年11月30日前に建築された公共公益施設であること。
- 2 原則として、取扱い要領に定める基準時の敷地の範囲内で建築が行われること。ただし、自己用住宅を除く。
- 3 原則として、取扱い要領に定める基準時の建築物と同一の用途であること。
- 4 建築物の規模、構造等が取扱い要領に定める従前のものに比較して過大でなく、かつ、周辺の土地利用の状況等からみて適切なものであること。

開発審査会提案基準取扱い要領 第3号関係

- (1) 基準第1項の「公共公益施設」とは、令第21条第26号イからホに掲げる施設をいい、基準時に建築行為に着手していたものを含むものとする。ただし、定員増等の事業拡大が伴わないものに限る。
- (2) 基準第2項及び第3項の「基準時」を下記のとおり定める。
 - ア 法の許可を受けた建築物については、許可日
 - イ 既存宅地確認を受けた建築物については、平成18年5月17日
 - ウ 区域区分日前の建築物については、昭和46年2月11日
 - エ 公共公益施設については、平成19年11月29日
- (3) 基準第4項に規定する従前のものに比較して過大でないものとは、既存建築物の建替又は増築後の建築物の延べ面積が基準時の延べ面積の1.5倍以下のものとする。ただし、基準に適合し、建替又は増築後の建築物の延べ面積が従前の建築物の延べ面積の1.2倍以下（自己用住宅の場合は1.5倍以下）のものの特許は不要とする。なお、既存宅地確認を受けた建築物の増築は認めない。
- (4) 従前の建築物の除却又は滅失後1年以内にあらたな建築物を建築する場合は、既存建築物の建替とみなして、基準を適用する。
- (5) 建築物には雨水流出抑制施設を設置するとともに、雑排水については、合併処理浄化槽を設置すること。ただし、増築の場合は、当該増築部分に限るものとする。

開 発 審 査 会 提 案 基 準 第 4 号
(従業員住宅等の建築)

法第34条第1号から第14号までの規定による許可を受けた開発行為に係る事業所又は従前から当該市街化調整区域に存する事業所において業務に従事する者の共同住宅又は寮等（以下「従業員住宅等」という。）で特に当該土地の区域に建築することがやむを得ないと認められるものに係る「法第34条第14号」又は「令第36条第1項第3号ホ」の運用については、次に掲げる要件を満たすと認められる場合に提案するものとする。

- 1 当該従業員住宅等の敷地が事業所の敷地に隣接又はきわめて近接している土地であること。
- 2 従業員住宅等の規模は、事業所の規模に対して適切なものであること。
- 3 敷地面積は、従業員住宅等の規模、立地等に照らして適切なものであること。
- 4 建築物の建築は事業主において行うものであって、従業員の厚生施設として建築するものであること。

開発審査会提案基準取扱い要領 第4号関係

- (1) 当該従業員住宅等が、当該事業所と同時に建築される場合についても審査の対象とする。
- (2) 建築物には、鹿児島市宅地開発に関する条例（平成19年条例第23号）第17条に該当する場合を除き、雨水流出抑制施設を設置するとともに、雑排水については、合併処理浄化槽を設置すること。

開 発 審 査 会 提 案 基 準 第 5 号
(研究施設)

研究対象が市街化調整区域に存在すること等の理由により、当該市街化調整区域に建設することがやむを得ないと認められる研究施設に係る「法第34条第14号」又は「令第36条第1項第3号ホ」の運用については、次に掲げる要件を満たすと認められる場合に提案するものとする。

- 1 研究対象について、次のいずれかに該当するものであること。
 - ア 研究対象が当該市街化調整区域に存在し、かつ、当該市街化調整区域において研究する必要性があること。
 - イ 研究対象が、自然的又は環境上特別の条件を必要とするものでその土地が当該特別の条件を満たすところであること。
- 2 研究施設の目的及び研究内容等を勘案して立地上、当該土地の周辺に影響を及ぼすおそれのない状況の地域であること。

開発審査会提案基準取扱い要領 第5号関係

- (1) 建築物には、鹿児島市宅地開発に関する条例（平成19年条例第23号）第17条に該当する場合を除き、雨水流出抑制施設を設置するとともに、雑排水については、合併処理浄化槽を設置すること。

開発審査会提案基準 第 6 号
(指定既存集落内の小規模な工場等)

指定既存集落内の小規模な工場等に係る「法第34条第14号」又は「令第36条第1項第3号ホ」の運用については、次に掲げる要件を満たすと認められる場合に提案するものとする。

- 1 小規模な工場等の位置が、指定既存集落内又はその周辺にあること。
- 2 許可申請者については、従前に10年以上当該指定既存集落内又はその周辺に生活の本拠を有する者であること。
- 3 小規模な工場等については、次に掲げる要件を満たすものであること。
 - ア 工場、事務所、店舗である建築物であって、予定建築物が周辺における土地利用と調和のとれたものであること。
 - イ 予定建築物に係る敷地の規模が1,000平方メートル以下であること。なお、店舗については、予定建築物の延べ面積が500平方メートル以下であること。
 - ウ 自己の生計を維持するために必要とする自己の業務の用に供する建築物であって、その経営形態及び運営管理上の観点から、当該集落において建築することがやむを得ないと認められるものであること。

この場合において「自己の生計を維持するため」とは、定年又は退職等の事情がある場合等、社会通念に照らし新規に事業を営むことがやむを得ないと認められる場合であること。

開発審査会提案基準取扱い要領 第6号関係

- (1) 建築計画のある敷地が、近接する指定既存集落と自然的条件、社会的条件からみて一体性のある区域内で、当該指定既存集落内に存する直近の建築物の敷地からおおむね100メートル以内にある場合においては、その敷地は当該指定既存集落の周辺にあるものとして取り扱うこととする。
- (2) 自然的条件については、河川、山林、高速道路等が存し、かつ、明らかに日常生活圏が分断されているか否かの判断によるものとする。
- (3) 社会的条件については、町内会組織、小学校区等の生活圏単位のほか住民の日常生活に密接に関連する生活利便施設、公共公益施設等の利用形態の共通性等にも照らし、総合的に判断するものとする。
- (4) 基準第2項の「従前に10年以上当該指定既存集落内又はその周辺に生活の本拠を有する」とは、建築物を適法に使用した期間を10年以上有することをいう。
- (5) 建築物には、鹿児島市宅地開発に関する条例（平成19年条例第23号）第17条に該当する場合を除き、雨水流出抑制施設を設置するとともに、雑排水については、合併処理浄化槽を設置すること。

開発審査会提案基準 第 7 号
(レクリエーションのための施設を構成する建築物)

市街化調整区域における自然的土地利用と調整のとれたレクリエーションのための施設を構成する次に掲げる建築物に係る「法第34条第14号」又は「令第36条第1項第3号ホ」の運用については、次のいずれかの要件を満たすと認められる場合に提案するものとする。

- 1 キャンプ場、スキー場等第二種特定工作物に該当しない運動・レジャー施設であって、地域における土地利用上支障がないものの管理上又は利用上必要最小限不可欠である施設である建築物で、次に掲げる要件を満たすものであること。
 - ア 当該キャンプ場等の施設自体が周辺の環境等に適合し、かつ、地域の土地利用計画に整合した内容のものであること。
 - イ 管理棟、バンガロー等必要最小限の施設である建築物であって周辺の自然環境に調和した簡素なものであること。
 - ウ 用途の変更が容易なものでないこと。
 - エ 自然公園法（昭和32年法律第161号）その他の法令に適合していること。
- 2 第二種特定工作物の利用増進上宿泊機能が必要不可欠であり、かつ、周辺の状況等から判断して、当該工作物の敷地内に建築することに格段の合理性がある場合の宿泊施設である建築物で、次に掲げる要件を満たすものであること。
 - ア 利用目的及び利用者の属性から宿泊機能が必要不可欠であること。
 - イ 市街化区域等における宿泊施設によっては円滑な対応が困難であること。

開発審査会提案基準取扱い要領 第7号関係

- (1) 建築物には、鹿児島市宅地開発に関する条例（平成19年条例第23号）第17条に該当する場合を除き、雨水流出抑制施設を設置するとともに、雑排水については、合併処理浄化槽を設置すること。

開発審査会提案基準第8号
(医療施設、社会福祉施設等)

医療施設、社会福祉施設等に係る「法第34条第14号」又は「令第36条第1項第3号ホ」の運用については、次に掲げる要件を満たすと認められる場合に提案するものとする。

- 1 当該施設は、次のいずれかに該当するものであること。
 - ア 医療法（昭和23年法律第205号）第1条の5第1項に規定する病院、同条第2項に規定する診療所又は同法第2条第1項に規定する助産所であること。
 - イ 社会福祉法（昭和26年法律第45号）第2条に規定する社会福祉事業の用に供する施設又は更生保護事業法（平成7年法律第86号）第2条第1項に規定する更正保護事業の用に供する施設であること。
 - ウ 老人福祉法（昭和38年法律第133号）第29条第1項に規定する有料老人ホームで、その権利関係は、利用権方式又は賃貸方式のものであり、かつ、関係部局と連絡調整の上、安定的な経営確保が図られていることが確実と判断されるものであること。
 - エ 介護保険法（平成9年法律第123号）に基づく介護老人保健施設であること。

- 2 当該施設の設置及び運営が、国が定める基準に適合するもので、当該地域振興に寄与するものであり、その位置、規模等からみて周辺の市街化を促進するおそれがないと認められ、かつ、当該開発区域を含む医療又は福祉施策及び都市計画上の観点から支障がないことについて、関係部局と調整がとれたもののうち、次のいずれかに該当するものであること。
 - ア 計画地周辺に係る医療施設、社会福祉施設等が存在し、これらの施設と当該許可に係る施設のそれぞれがもつ機能とが密接に連携しつつ立地又は運用する必要がある場合
 - イ 当該開発区域周辺の優れた自然環境が必要と認められる場合など、当該開発区域周辺の資源、環境等の活用が必要である場合

開発審査会提案基準取扱い要領 第8号関係

- (1) 基準第1項ウの「有料老人ホーム」は、高齢者の居住の安定確保に関する法律（平成13年法律第26号）第5条第1項の規定により登録されたサービス付き高齢者向け住宅で、介護、食事の提供、家事又は健康管理のサービスが提供されるものを含むものとする。
- (2) 建築物には、鹿児島市宅地開発に関する条例（平成19年条例第23号）第17条に該当する場合を除き、雨水流出抑制施設を設置するとともに、雑排水については、合併処理浄化槽を設置すること。
- (3) 敷地の境界線に沿って樹木等の緩衝帯を設けるなど、周囲の自然環境との調和に配慮した景観形成が図られたものであること。

開発審査会提案基準 第 9 号
(学校等)

学校等に係る「法第 3 4 条第 1 4 号」又は「令第 3 6 条第 1 項第 3 号ホ」の運用については、次に掲げる要件を満たすと認められる場合に提案するものとする。

- 1 学校教育法（昭和 2 2 年法律第 2 6 号）第 1 条に規定する学校、同法第 1 2 4 条に規定する専修学校又は同法第 1 3 4 条第 1 項に規定する各種学校であること。
- 2 教育環境の確保のため、当該開発区域の周辺の資源、環境等が必要であることなどから、市街化調整区域に立地させることがやむを得ないと認められるものであり、その位置、規模等からみて周辺の市街化を促進するおそれがないと認められ、かつ、当該開発区域を含む文教政策及び都市計画上の観点から支障がないことについて、関係部局と調整がとれたものであること。

開発審査会提案基準取扱い要領 第 9 号関係

- (1) 建築物には、鹿児島市宅地開発に関する条例（平成 1 9 年条例第 2 3 号）第 1 7 条に該当する場合を除き、雨水流出抑制施設を設置するとともに、雑排水については、合併処理浄化槽を設置すること。
- (2) 敷地の境界線に沿って樹木等の緩衝帯を設けるなど、周囲の自然環境との調和に配慮した景観形成が図られたものであること。

開発審査会提案基準 第 1 0 号
(廃棄物の中間処理施設等)

廃棄物の中間処理施設及び最終処分場の用に供する建築物等に係る「法第 3 4 条第 1 4 号」又は「令第 3 6 条第 1 項第 3 号ホ」の運用については、次のいずれかの要件を満たすと認められる場合に提案するものとする。

- 1 一般廃棄物の中間処理に係る施設（廃棄物の処理及び清掃に関する法律（昭和 4 5 年法律第 1 3 7 号。以下「廃棄物処理法」という。）第 8 条第 1 項に規定する一般廃棄物処理施設を除く。）であって、剪定木等を再資源化するための施設であること。
- 2 産業廃棄物の中間処理に係る施設（廃棄物処理法第 1 5 条第 1 項に規定する産業廃棄物処理施設を除く。）であって、建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（平成 1 2 年法律第 1 0 4 号）第 2 条第 5 項に規定する特定建設資材を再資源化するための施設又は石膏ボードを破砕する施設であること。
- 3 クラッシャープラント（廃棄物処理法第 1 5 条第 1 項に規定する産業廃棄物処理施設を除く。）であること。
- 4 廃棄物処理法第 1 5 条第 1 項に規定する最終処分場（安定型処分場に限る。）に設けられる必要最小限の規模の建築物であること。
- 5 廃棄物処理法の規定に基づく産業廃棄物の焼却施設から発生する焼却灰を一時保管する施設であること。
- 6 第 1 項から第 4 項までに規定する施設以外の施設で、廃棄物処理法第 8 条第 1 項に規定する一般廃棄物処理施設に該当しない一般廃棄物の中間処理に係る施設又は同法第 1 5 条第 1 項に規定する産業廃棄物処理施設に該当しない産業廃棄物の中間処理に係る施設であること。

開発審査会提案基準取扱い要領 第10号関係

- (1) 敷地は、建築基準法（昭和25年法律第201号）第42条第1項各号に規定する道路又は農道その他これに類する公共の用に供する空地で建築基準法第43条ただし書の許可を受けたもの（以下「道路等」という。）で、幅員6メートル以上（幅員が4メートル以上の道路等に接しており、前面道路等の反対側の境界線から6メートル以上塀、植栽等を後退する等、交通上支障がないと認められる場合においてはこの限りでない。）のものに接していること。
- (2) 敷地の主要な出入口は、交差点若しくは曲がり角から5メートル以内の道路等、横断歩道、橋、踏み切り、トンネル若しくは陸橋から10メートル以内の道路等、又は急坂の道路に接していないこと。
- (3) 敷地は、処理施設の規模に応じて、原材料置場、処理済資材置場、積換場所、駐車場等を有効に配置することができる適正な広さを有していること。
- (4) 基準第1項から第4項までの用に供する建築物の延べ面積は、廃棄物の種類ごとに150平方メートル以下とする。ただし、管理事務所等（管理事務所、休憩室及び便所）の延べ面積は50平方メートル以下とする。
- (5) 基準第5項の用に供する建築物の延べ面積は、50平方メートル以下とする。
- (6) 基準第6項に定めるものは、管理事務所等（管理事務所、休憩室及び便所）で延べ面積が50平方メートル以下のものとする。
- (7) 敷地の境界線に沿って樹木等の緩衝帯を設けるなど、周囲の自然環境との調和に配慮した景観形成が図られたものであること。
- (8) 敷地内については、管理上支障のない範囲において舗装を行わないものとし、敷地内からの排水処理については、周辺的环境悪化を生じないように配慮されたものであること。

また、建築物には、鹿児島市宅地開発に関する条例（平成19年条例第23号）第17条に該当する場合を除き、雨水流出抑制施設を設置するとともに、雑排水については、合併処理浄化槽を設置すること。
- (9) 処理施設の操業等に伴う騒音、振動、粉じん等について周辺地域の良好な環境を損なうことがないように必要な措置が講じられたものであること。
- (10) 申請者は、廃棄物処理法第7条第6項、同法第14条第6項又は第14条の4第6項の許可を受けた者若しくは許可を受けることが確実な者であること。

開発審査会提案基準 第11号
(使用済自動車の解体の用に供する建築物)

使用済自動車の再資源化等に関する法律（平成14年法律第87号。以下「自動車リサイクル法」という。）に基づき、使用済自動車の解体の用に供する建築物に係る「法第34条第14号」又は「令第36条第1項第3号ホ」の運用については、次に掲げる要件を満たすと認められる場合に提案するものとする。

- 1 申請者は、自動車リサイクル法の規定により、許可を受けた者又は許可を受けることが確実な者であること。
- 2 建築物の用途は、解体作業場、部品保管庫及び管理事務所であること。

開発審査会提案基準取扱い要領 第11号関係

- (1) 敷地は、建築基準法（昭和25年法律第201号）第42条第1項各号に規定する道路又は農道その他これに類する公共の用に供する空地で建築基準法第43条ただし書の許可を受けたもの（以下「道路等」という。）で、幅員6メートル以上（幅員が4メートル以上の道路等に接しており、前面道路等の反対側の境界線から6メートル以上塀、植栽等を後退する等、交通上支障がないと認められる場合においてはこの限りでない。）のものに接していること。ただし、自動車リサイクル法に基づく、解体業の許可制の開始日（平成16年7月1日）前から解体業に該当する事業が行われている敷地で、前面道路等の現況幅員の反対側の境界線から4メートル以上塀、植栽等を後退したものについてはこの限りでない。
- (2) 敷地の主要な出入口は、交差点若しくは曲がり角から5メートル以内の道路等、横断歩道、橋、踏み切り、トンネル若しくは陸橋から10メートル以内の道路等、又は急坂の道路に接していないこと。
- (3) 解体作業場、部品保管庫の延べ面積は、それぞれ200平方メートル以下とする。
- (4) 管理事務所（休憩室及び便所を含む。）の延べ面積は、50平方メートル以下とする。
- (5) 敷地の境界線に沿って樹木等の緩衝帯を設けるなど、周囲の自然環境との調和に配慮した景観形成が図られたものであること。
- (6) 敷地内については、管理上支障のない範囲において舗装を行わないものとし、敷地内からの排水については、周辺環境悪化を生じないよう配慮されたものであること。
また、建築物には、鹿児島市宅地開発に関する条例（平成19年条例第23号）第17条に該当する場合を除き、雨水流出抑制施設を設置するとともに、雑排水については、合併処理浄化槽を設置すること。
- (7) 施設の操業に伴う騒音、振動、粉じん、廃油等について周辺地域の良好な環境を損なうことがないよう必要な措置が講じられたものであること。

開発審査会提案基準 第12号
(建設業関係建築物)

建設業関係の資材置場の用に供する建築物に係る「法第34条第14号」又は「令第36条第1項第3号ホ」の運用については、次に掲げる要件を満たすと認められる場合に提案するものとする。

- 1 申請者は、既に建設業の許可を受けた者であること。(現に業を営んでいる者に限る。なお、下請業者も含む。)
- 2 建築物の用途は、資材倉庫、車庫及び管理事務所(休憩室及び便所を含む。)であること。ただし、管理事務所のみ建築は認めない。
- 3 敷地は、現に耕作を行っている農地、山林等でないこと。

開発審査会提案基準取扱い要領 第12号関係

- (1) 敷地は、建築基準法(昭和25年法律第201号)第42条第1項各号に規定する道路又は農道その他これに類する公共の用に供する空地で建築基準法第43条ただし書の許可を受けたもの(以下「道路等」という。)で、幅員4メートル以上のものに接していること。ただし、道路交通量、敷地への資材や機材の搬入状況等から勘案し、市長が必要と認めた場合の道路等の幅員は6メートル以上とする。
- (2) 敷地の主要な出入口は、交差点若しくは曲がり角から5メートル以内の道路等、横断歩道、橋、踏み切り、トンネル若しくは陸橋から10メートル以内の道路等、又は急坂の道路等に接していないこと。
- (3) 資材倉庫及び車庫の延べ面積は、それぞれ200平方メートル以下とする。
- (4) 管理事務所(休憩室及び便所を含む。)の延べ面積は、50平方メートル以下とする。
- (5) 建築面積の敷地面積に対する割合は30%以下、延べ面積の敷地面積に対する割合は50%以下とする。
- (6) 敷地の境界線に沿って樹木等の緩衝帯を設けるなど、周囲の自然環境との調和に配慮した景観形成が図られたものであること。
- (7) 敷地内については、管理上支障のない範囲において舗装を行わないものとし、敷地内からの排水処理については、周辺の環境悪化を生じないように配慮されたものであること。
また、建築物には、鹿児島市宅地開発に関する条例(平成19年条例第23号)第17条に該当する場合を除き、雨水流出抑制施設を設置するとともに、雑排水については、合併処理浄化槽を設置すること。
- (8) 敷地の利用に伴う騒音、振動、粉じん等について、周辺地域の良好な環境を損なうことがないように必要な措置が講じられたものであること。

開発審査会提案基準 第 13 号
(既存宅地)

鹿児島市市街化調整区域における住宅建築等に関する条例（平成16年条例第103号）第2条（指定する土地の区域）又は第4条（敷地面積の最低限度）の規定を満たさない土地における建築に係る「法第34条第14号」又は「令第36条第1項第3号ホ」の運用については、次に掲げる要件を満たすと認められる場合に提案するものとする。

- 1 土地については、次に掲げる要件を満たすものであること。
 - ア 区域区分日前において、当該土地が宅地であったことを確認できること。
 - イ 市街化区域と市街化調整区域との境界線からおおむね1キロメートル以内の区域及び国道若しくは県道からおおむね250メートル以内の区域で別図に示す区域内にあるものであること。
- 2 建築物については、次に掲げる要件を満たすものであること。
 - ア 建築基準法（昭和25年法律第201号）別表第二（イ）項第1号から第3号まで及び（ろ）項第2号に掲げるものであること。
 - イ 地盤面からの高さが10メートルを超えないものであること。

開発審査会提案基準取扱い要領 第 13 号関係

- (1) 基準第1項アについては、土地の登記簿謄本又は土地の登録事項証明書（課税状況）でそのことが確認できるものであること。
- (2) 建築物には、鹿児島市宅地開発に関する条例（平成19年条例第23号）第17条に該当する場合を除き、雨水流出抑制施設を設置するとともに、雑排水については、合併処理浄化槽を設置すること。

開 発 審 査 会 提 案 基 準 取 扱 い 要 領 その他

開発審査会提案基準各号に該当しない開発行為等で、次に掲げる要件に該当するものについては審査会に提案することができる。

- 1 当該開発行為等が周辺における市街化を促進するおそれがないと認められ、かつ、市街化区域内において行うことが困難又は著しく不相当と認められること。
- 2 当該市街化調整区域において行われる開発行為等の目的に相当の理由があること。
- 3 建築物には、鹿児島市宅地開発に関する条例（平成19年条例第23号）第17条に該当する場合を除き、雨水流出抑制施設を設置するとともに、雑排水については、合併処理浄化槽を設置すること。

開発審査会の経過	施行経過
平成12年 4月12日 第1回開発審査会 一括	平成12年 4月12日から
平成13年 3月30日 第7回開発審査会 一部改正（第一次改正）	平成13年 5月18日から
平成13年 5月23日 第8回開発審査会 一部改正（第二次改正）	平成13年 5月23日から
平成13年 7月26日 第9回開発審査会 一部改正（第三次改正）	平成13年 7月26日から
平成14年 3月27日 第13回開発審査会 一部改正（第四次改正）	平成14年 3月27日から
平成14年11月25日 第17回開発審査会 一部改正（第五次改正）	平成14年12月 1日から
平成15年 4月23日 第20回開発審査会 一部改正（第六次改正）	平成15年 5月 1日から
平成16年 8月 3日 第27回開発審査会 一部改正（第七次改正）	平成16年11月 1日から
平成16年10月 6日 第28回開発審査会 一部改正（第八次改正）	
平成17年 2月 2日 第30回開発審査会 一部改正（第九次改正）	平成17年 2月 2日から
平成17年 7月29日 第33回開発審査会 一部改正（第十次改正）	平成17年 7月29日から
平成19年 3月26日 第42回開発審査会 追加	平成19年 4月 1日から
平成19年10月23日 第46回開発審査会 全部改正（第十一次改正）	平成19年11月30日から
平成22年 3月23日 第58回開発審査会 一部改正（第十二次改正）	平成22年 4月 1日から
平成24年 3月22日 第68回開発審査会 一部改正（第十三次改正）	平成24年 4月 1日から

※ この開発審査会提案基準は、上記のとおり必要に応じて改正を行っております。
提案基準の内容については、事前に土地利用調整課にご確認ください。

6-5-5 開発審査会への手続き等

1. 開発審査会への手続き

建築の用に供する目的で行う土地の区画形質の変更（宅地造成）がある場合は、都市計画法第29条の規定に基づく開発行為許可申請となり、一部異なりますので事前にご相談ください。

(1) 開発審査会の開催時期

通常、年6回奇数月（5月、7月、9月、11月、1月、3月）下旬に開催されていますので、審査会付議案件については、(2)に示す書類を所定の期日までに市（土地利用調整課）に提出してください。

(2) 提出書類

① 許可申請

許可申請書等は2部（1部はコピー可）とし、次の書類及び図面を添付して担当職員との協議並びに関係課との協議を経て開催月の前月までに申請してください。

ア. 許可申請書
イ. 委任状（※代理人に委任する場合）
ウ. 理由書（店舗等の場合は業務内容説明書）
エ. 申請地を含む周囲の状況を示す写真（2枚以上）
オ. 土地の登記事項証明書（申請日から3ヶ月以内のもので正に原本、副はコピー可） ・農地の場合は農地転用受付証明書を添付すること。
カ. 字絵図（申請日から3ヶ月以内のもので正に原本、副はコピー可）
キ. 付近見取図（方位、敷地の位置及び敷地の周辺の公共施設を記入すること）
ク. 敷地現況図（配置図、敷地求積図、敷地縦横断面図及び排水計画図） ・敷地の境界、建築物の位置、がけ及び擁壁の位置、並びに排水施設の位置、種類、水の流れの方向、吐口の位置及び放流先を記入すること。
ケ. 各階平面図、面積計算表（縮尺 1/200 以上）
コ. 立面図（縮尺 1/200 以上・2面以上）
サ. 借地の場合は、借地承諾書を添付すること。なお地主の承諾印は実印とし、印鑑証明書を添付すること。（土地売買契約書の写しでも可。受付時原本還付。）
シ. その他 開発審査会提案基準に依りて必要とする図書等 （担当職員と協議を行ってください。次に主な書類を例示。）

開発審査会提案基準に依りて必要とする主な図書

開発審査会提案基準	必要とする主な図書
<提案基準第1号> 既存の権利の届出忘れ	区域区分日前に土地の所有権または土地の利用に関する権利を有していたことが明確に証明できるもの
<提案基準第2号> 社寺仏閣及び納骨堂	(1)当該市街化調整区域及びその周辺の地域における信者の分布図 (2)当該地域に立地する合理的事情があることの理由書
<提案基準第3号> 建替又は増築 建替又は増築	(1)都市計画法の許可を受けた建築物 開発（建築）許可通知書又は建築確認済証 (2)既存宅地確認を受けた建築物 既存宅地確認通知書又は建築確認済証 (3)区域区分日前の建築物 建物の登記事項証明書又は家屋証明書〈建設年度記入〉

	(4)公共公益施設 建築確認済証 許可（認可）証の写し、関係部局との協議録等
<提案基準第4号> 従業員住宅等の建築	(1)事業所と従業員住宅との位置関係がわかる地図 (2)事業所の規模が確認できるもの
<提案基準第5号> 研究施設	研究対象が当該市街化調整区域に合法的に存在することが証明できるもの
<提案基準第6号> 指定既存集落内の小規模な工場等	(1)10年以上居住していたことが確認できる戸籍の附票、または住民票 (2)事業内容が確認できるもの (3)当該地域に立地することがやむを得ないと判断される理由書等
<提案基準第7号> レクリエーションのための施設を構成する建築物	必要最小限不可欠である施設と判断される理由書等
<提案基準第8号> 医療施設、社会福祉施設等	(1)許可（認可）証の写し、関係部局との協議録等 (2)協力施設の概要 (3)当該地域に立地することがやむを得ないと認められる理由書等 (4)事業計画書及び資金計画書（残高証明書及び融資証明書以内） (5)資力及び信用に関する申告書 法人の場合：・登記事項証明書 ・事業経歴 ・財務諸表 ・納税証明書（法人税及び法人事業税） ・預金残高証明書（資金計画が預金残高で満たない場合は別途融資証明も添付） ・法令等による登録 個人の場合：・履歴書 ・納税証明書（所得税） ・預金残高証明書（資金計画が預金残高で満たない場合は別途融資証明も添付）
<提案基準第9号> 学校等	(1)許可（認可）証の写し、関係部局との協議録等 (2)当該地域に立地することがやむを得ないと認められる理由書等 (3)事業計画書及び資金計画書（残高証明書及び融資証明書以内） (4)資力及び信用に関する申告書 ・登記事項証明書 ・事業経歴 ・財務諸表 ・納税証明書（法人税及び法人事業税） ・預金残高証明書（資金計画が預金残高で満たない場合は別途融資証明も添付） ・法令等による登録
<提案基準第10号> 廃棄物の中間処理施設等	(1)廃棄物処分業許可証の写し (2)植栽計画図 (3)会社概要等
<提案基準第11号> 使用済自動車の解体の用に供する建築物	(1)自動車リサイクル法に基づく解体業の許可証の写し (2)事業計画書 (3)会社概要等
<提案基準第12号> 建設業関係建築物	(1)建設業許可証の写し及び工事実績書 (2)会社概要等 (3)資産証明等（所有建築物の合法性を確認するため）
<提案基準第13号> 既存宅地	区域区分日前において当該土地が宅地であったことを確認できるもの（土地の登記事項証明書等）
<提案基準取扱い要領> その他	当該地域に立地することがやむを得ないと認められる理由書等

※ 状況に応じて上記表以外のものでも個別に必要とする書類等があります。

② 説明用図書等

許可を申請した者は、図書又は書面の仕様等について担当職員と協議を経て、開発審査会開催月の5日までに下記アからエについては12部（その他は1部）提出してください。

ア. 申請地位置図

縮尺1/3,000程度の住宅用地図等を利用し、申請地を赤色の蛍光ペンでマークしてください。

イ. 土地利用計画図・配置図

区域、排水計画（合併浄化槽、油水分離槽等）、植栽計画（樹種、本数、間隔等）等を記入してください。

ウ. 予定建築物の平面図

延べ面積及び用途毎の床面積を記入してください。

エ. 予定建築物の立面図

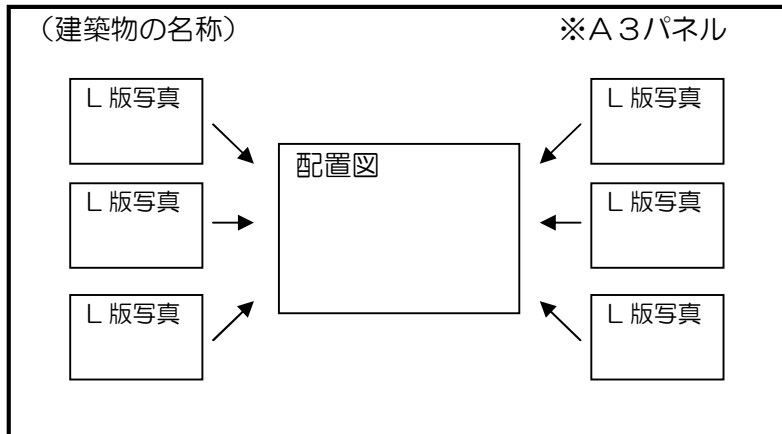
高さ及び外壁、屋根の仕上げを記入してください。

※ アからエまでの資料については、次のとおり製本してください。

- ① 資料は、A3横サイズとしてください。
- ② ページを記入しますので下の余白は20mm程度設けてください。
- ③ 設計事務所等の名称、独自の枠は入れないでください。
- ④ 15部はホッチキスで留めず、ダブルクリップ又はクリップで留めて提出してください。

オ. 現況写真のパネル（※必要に応じて）

次の図を参考に敷地の各方向から撮影した写真をパネル等に貼付し、配置図には撮影位置と方向を記入してください。



カ. 質疑応答集

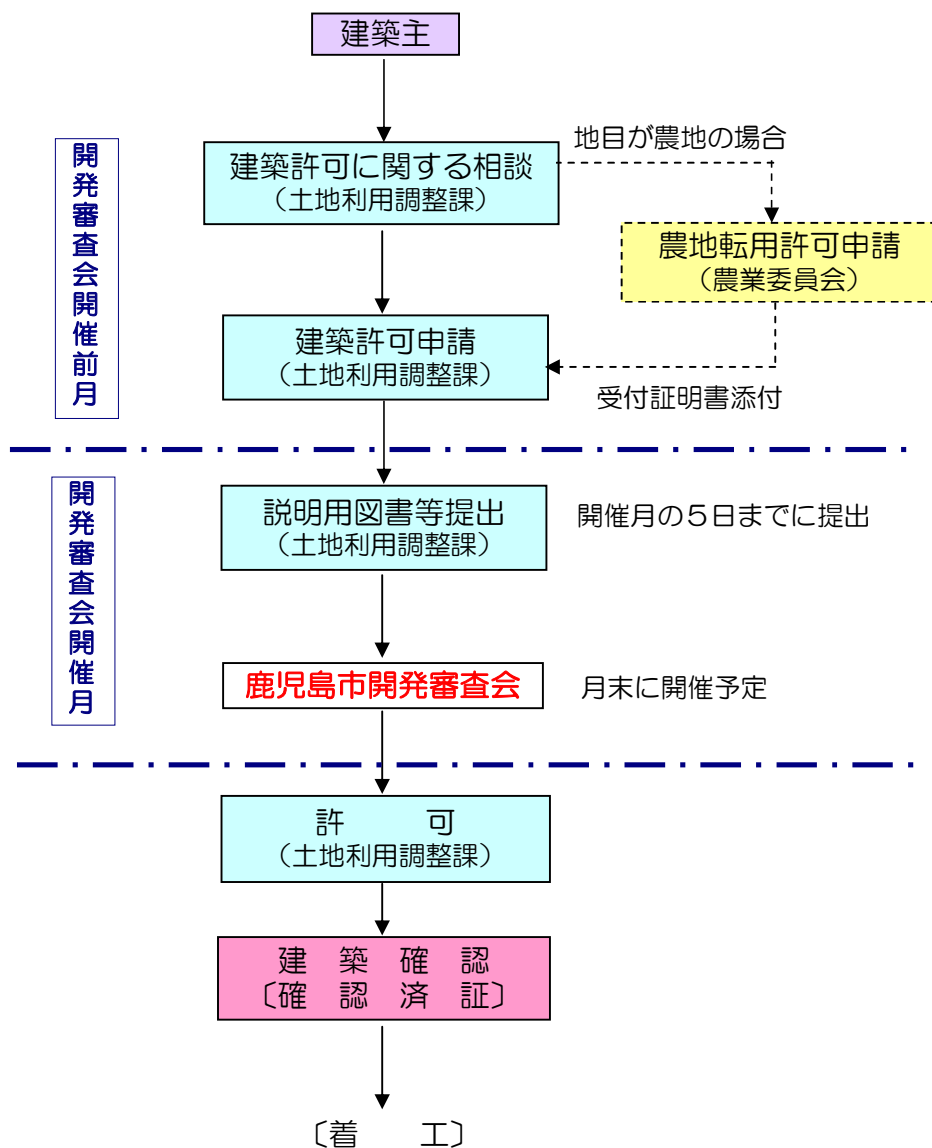
開発審査会で予想される質問事項と回答を記入したもの

キ. その他必要な図書等

申請内容により別途資料を求める場合がありますので、担当職員と協議を行ってください。

2. 手続きの流れ（法第43条許可の場合）

※ 建築の用に供する目的で行う土地の区画・形質の変更（宅地造成）がある場合は、都市計画法第 29 条の規定に基づく開発行為許可申請となり、下記の流れと一部異なりますので事前にご相談ください。



【解説】

- ① 開発許可の場合、「建築許可申請」が、法第 29 条に基づく開発許可申請となります。したがって、その申請前に法第 32 条に基づく事前協議を終了させる必要があります。（なお、事前協議には相当日数を要しますのでご注意ください。）
- ② 法第 32 条に基づく事前協議申出を行う前に、開発審査会に諮問できる物件なのかを整理する必要があります。
- ③ 開発許可の場合、農地転用に関する協議は、32 条事前協議の中で行います。
- ④ 開発許可の場合、許可後は、造成工事等に着手することになります。なお、開発許可においても、開発許可後は建築確認申請を行うことはできません。ただし、建築工事の着工は、開発行為の完了公告後となりますのでご注意ください。